

「想像してごらん」と語りかけてくる...オノ・ヨーコの個展会場の白く透明なオブジェたち 《「A statue was here 一つの像がここにあった」》

アート・ジャーナル



2025/06/24

エンタメ

アート

シンプルで静謐な空間に、白を基調としたオブジェが点在している。一つひとつと向き合っていると、そのモノが「想像してごらん」と、こちらに語りかけてくるかのよう。

観る側の視界と脳内をすっきりクリアにしてくれる展覧会が、東京の小山登美夫ギャラリーで開催中だ。六本木と天王洲ふたつのスペースでの、オノ・ヨーコ展「A statue was here 一つの像がここにあった」。



小山登美夫ギャラリー天王洲会場風景 Installation view from “A statue was here” at Tomio Koyama Gallery Tennoz, Tokyo, Japan, 2025 ©Yoko Ono photo by Kenji Takahashi



この記事の画像 (5枚)

アートを介してジョン・レノンと出会う

オノ・ヨーコの名は、まずもってジョン・レノンのパートナーとして知られる。だがジョンと行動をともにするずっと以前から、彼女はアートの世界で独自のキャリアを歩み、突出した存在感を示していた。

戦前の東京に生まれたヨーコは、1950年代に家族でニューヨークへ移る。当地の大学在学中には早くも、《シークレット・ピース（ひみつの曲）》をつくった。夏の早朝に鳥の声を伴奏にして、任意の音をひたすら演奏しなさい、と指示する言葉のみでできた作品で、これは「インストラクション」と呼ばれる手法である。

その後もヨーコはパフォーマンスや、空間を丸ごと作品にするインスタレーションなど、さまざまなかたちで発表を重ねていく。1964年に初出の《カット・ピース》は、その場に座り動かぬヨーコの着衣を、来場者がすこしずつハサミで切り取っていくという大胆なもの。瞑想的でありながら、人の内側に潜む暴力性を露わにする作品だ。



小山登美夫ギャラリー六本木会場風景 Installation view from “A statue was here” at Tomio Koyama Gallery Roppongi, Tokyo, Japan, 2025 ©Yoko Ono photo by Kenji Takahashi



ジョン・レノンとの出会いも、アートを通してのことだった。ヨーコが個展を準備していたロンドンのギャラリーに、ジョンがふらり立ち寄って、《天井の絵（イエス・ペインティング）》や《釘を打つための絵》に強い感銘を受けたのである。急接近したふたりは、ともに音楽活動やパフォーマンスに注力していくこととなる。

最愛のジョン・レノンを1980年に亡くしたヨーコは、しばし沈黙するも、心の傷が癒えはじめた1980年代終盤にアートの世界へ舞い戻る。2000年代には大規模な回顧展を世界巡回させたりと、精力的な活動が現在に至るまで続いている。

草間彌生や村上隆に先んじて、現代アートの世界で最も高い評価を受けてきた日本出身アーティストは、オノ・ヨーコその人である。

次のページ [観客の「参加」によって仕上がる作品](#)

1 2 3

次へ

観客の「参加」によって仕上がる作品

今展は世界を牽引してきたアーティスト、オノ・ヨーコの作品世界を生身で体験できる貴重な機会となる。ふたつの会場で、どんな展示が繰り広げられているのか。展示の構成や設置を指揮したオノ・ヨーコのスタジオ・ディレクター、コナー・モナハン氏に伺った話を交え、見ていこう。

六本木の会場に足を踏み入れると、まずは初公開の作品《Three Lives》と対面することとなる。楕円形の大きい鏡が並んでおり、一枚はそのままだが一枚は破損し、もう一枚は光源によって照らされている。鏡の前を鑑賞者が移動することによって、鏡像に変化が生じていく。





オノ・ヨーコ Yoko Ono 《Three Lives》 2019 Three mirrors with steel frames, plywood, led lights, electrical wiring h.153.0×w.61.6×d.5.7 cm (each) ©Yoko Ono, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

会場奥へ進むと、壁際にそっと置かれているのが《Mind Object I》。白色や透明の球体、一本のタバコ、一枚のコイン、石でできた本、塩入れがきれいに並んで、ひとつのオブジェを成す。眺めているだけでだれの心にも、きっと何かを想起させそうなたたずまいだ。



オノ・ヨーコ Yoko Ono 《Mind Object I》 1960/1966 Acrylic, marble, coin, cigarette, salt shaker h.2.5×w.45.5×d.30.0 cm ©Yoko Ono, Courtesy of Tomio Koyama Gallery



さらに別室の机の上には、もとは器だったのだろうか、無数の破片が散らばっている。その全体が《Mend Piece》と題された作品だ。ヨーコによるインストラクションが付いており、「知恵で修復しなさい 愛で修復しなさい それは同時に地球を修復するでしょう」と観衆に語りかけてくる。今回の展示では、能登半島地震で破損した白磁破片が使われているという。



小山登美夫ギャラリー六本木、オノ・ヨーコ《Mend Piece》のある会場風景
Installation view from "A statue was here" at Tomio Koyama Gallery
Roppongi, Tokyo, Japan, 2025 ©Yoko Ono photo by Kenji Takahashi



天王洲の会場も覗いてみると、こちらの床には《Wrapping Piece》の展示がある。包帯と球体状の物体が用意しており、鑑賞者は好きなだけその包帯を球体に巻きつけていける。作品に関与した一人ひとりが、他者を手当・保護・覆い守るということの意味を、再確認していくしくみだ。

壁面では《Draw Circle Painting》が展開されている。真っ白のキャンバスがいくつも掛けられており、来場者はそこにペンで自由に丸を描くことができる。つまりここでは作品が、観客の手によって仕上げられていくわけだ。

「六本木の展示では精神的な参加を、天王洲では物理的な参加を促しています。ヨーコはどちらの参加方法も重視していて、両者がそろって初めて、世界を変えることにつながっていくと考えています」

と、コナー・モナハン氏が教えてくれた。

次のページ [日本で培われたオノ・ヨーコの想像力と創造力](#)

前へ

1 2 3

次へ

「ヨーコはキャリアの初期のころから、観衆の参加行為を促し続けてきました。参加によって目の前に小さい変化を起こし、それが巡り巡って世界を大きく変えていくと信じ、実践してきたのです」

ということは、だ。オノ・ヨーコ作品を実地に味わい理解するには、観る側の参加意識が何より大切ということになる。

「そうです、まずは作品に参加してみることに。さらには、作品のタイトルに注目してみるのもいいでしょう。言葉を大切な表現手段と考えているヨーコらしく、どの作品にも美しく詩的なタイトルが付いていて、そこに作品を読み解くヒントが含まれていることは多いです」

日本で培われたオノ・ヨーコの想像力と創造力

六本木、天王洲の両会場を巡っていると気づく。コインや包帯、ガラス瓶など、オノ・ヨーコ作品の素材には、日常のものが多く使われていることに。それもヨーコの創作の特長だと、コナー・モナハン氏は語る。

「身近なものからインスピレーションを得て、想像を広げていくのは、ヨーコのいつものやり方です。代表的なものは、青い空です。空というのは見上げればいつもそこにあるもので、同時に過去から未来にかけてずっと存在するものでもある。身近な空を見上げることは、永遠の美しさについて考えることにつながります。それでヨ

「一コはこれまで、空をモチーフにした作品をたくさんつくってきたのです」

世界中で活動を展開してきたオノ・ヨーコにとって、今展のように日本で個展を開くことは、特別な意味を持つのだろうか。

「生まれ故郷である日本が、ヨーコにとって重要な地であるのはもちろんです。とくに彼女の原体験には戦争の記憶があり、それを体験したのが日本だったという事実は大きいと思います。これまでさまざまな土地に身を置いて活動してきたヨーコですが、創造的なアイデアの多くは日本で得ています。ヨーコの気持ちに寄り添える日本の観客のみなさんに、彼女の作品をじっくり楽しんでいただきたいです」

そう、オノ・ヨーコは第二次世界大戦中、東京から長野への疎開を経験している。疎開先でお腹を空かせた弟を元気づけようと、ヨーコは料理の献立を空想して、姉弟で飽きることなく語り合ったという。「想像してごらん」というヨーコの創作の根本原理はここに生まれ、のちにジョン・レノンの楽曲「イマジン」にも反映されていたのである。

都内2か所で展開するオノ・ヨーコの作品に触れて、想像力を存分に羽ばたかせてみたい。

INFORMATION

オノ・ヨーコ「A statue was here 一つの像がここにあった」

6月10日～7月5日

小山登美夫ギャラリー六本木

小山登美夫ギャラリー天王洲

<https://tomiokoyamagallery.com/>

前へ

1 2 **3**
